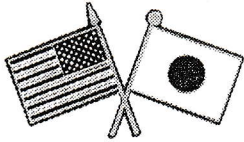


29 JULY 2003



第20号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会  
〒105-0004 港区新橋 5-25-1-3

編集：J A A G A 事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：http://www.bouei.com/groups/jaaga/

## 第8回 年次総会・懇親会実施

— 役員交代；会長は石塚氏から村木氏へ —

### レミントン米第18航空団司令が記念講演



Brig. Gen. Remington

平成15年度（第8回）J A A G A年次総会が、4月25日グランドヒル市谷において記念講演会及び懇親会と共に開催された。

総会は、出席者61名及び委任状提出者133名により成立、冒頭、故生越龍生会員、齋藤嘉夫会員、眞田泰穂会員、高木作之会員それぞれのご冥福を祈って黙祷を捧げた。次いで、この総会を機に退任する石塚会長が挨拶し、「米第5空軍司令官がマイヤーズ現統参議長からエバハート大将に代わったばかりのJ A A G A発足時から、理事長として2年、会長として4年の間、先輩格のJ A N A F A（日米ネイビー友好協会）より数々の教訓を戴いたこと、その

時々の常務理事各位の活躍に敬服していること等に言及しつつ、時々刻々変化する世界情勢の中で変化しないのは日米同盟の重要性であるとの認識の下、米国や米軍が変化し続ける中、J A A G Aの活動についても新たな発想が必要である」等の所感を示し、終わりに村木新会長以下の活躍を祈念して、挨拶を締めくくった。

引き続き第1号から第5号までの議案審議に進み、平成14年度事業報告、同決算報告及び同会計監査報告、並びに平成15年度事業計画案、同予算案及び役員を選任に関するそれぞれの議案について担当の常務理事から説明を行い、何れも提案どおり承認



The Audience at the Lecture



された。これに伴い承認された新役員を代表して村木新会長から旧役員への感謝の言葉を贈ると共に、新役員そして会員各位と一緒に楽しく頑張っていきたい旨の就任挨拶と新役員の紹介等があった後、退任役員に対する盛大な拍手を以って総会は滞りなく終了した。

総会に続いての記念講演は、米第18航空団司令レミントン准将が「航空宇宙遠征軍における第18航空団の運用について」と題して、東アジア戦略における同航空団を含む在沖縄米軍の位置付けや役割等に関し、このイラク戦争での航空戦の戦訓など時宜にかなった話題をも含めて極めてフルーツフルな中味の論述を展開し、現役空自幹部約20名を含めた会場満杯の聴衆を魅了した。満座の大拍手の中、村木会長より謝辞と感謝の記念品を贈呈された。

なおレミントン准将はこの記念講演のために、出張中のハワイから成田経由で市ヶ谷まで直行して載ったものである。

会場を移しての懇親会には、石破防衛庁長官及び内局主要幹部、ワスコー在日米軍司令官及び米軍主



New President & Guest Speaker

要幹部、JANAF副会長、つばさ会会長及び同副会長、そして津曲航空幕僚長、小田航空総隊司令官をはじめ内外多数の御来賓の参加を得た。更に今回は、在日米軍及び航空自衛隊の前任下士官を迎えたこともあって、米軍関係者30余名や夫人を含めた華やいだ雰囲気の中、会場随所に歓談の輪が広がり、大盛会は時間を超えてようやく宴を閉じ、ここに第8回総会関連行事の全てが終了した。(吉田理事)

## 石塚 勲 前会長の退任挨拶



J A A G Aの発足は、1996年7月5日でした。空幕長は村木さん、5空軍司令官は現統参議長のマイヤーズさんからエバハートさんへ変わったばかりでした。

J A A G Aを立ち上げるために努力された皆さんの熱意とご苦勞、先輩組織であるJANAFから頂いた数々の教訓は、大変あり難く忘れません。

また発足からJ A A G Aの活動が軌道に乗るまでの試行錯誤の期間を乗り越えて今日の基礎を造られ、更に発展させてこられた常務理事の皆さんの奉仕の精神と、積極的な働きには心から敬服しております。

今発足から7年になろうとするJ A A G Aに、私は理事長として2年、会長として4年間お世話になりました。少々長くなってしまいましたが、この間に賜りましたご支援に対して深く感謝の意を表したいと存じます。

時々刻々変化する世界情勢の中で、変化しないのは日米同盟の重要性であり、米国の同盟に対する考え方も、米軍自身も変化し続けています。J A A G Aの活動についても、真に実効を上げるためには、日々新たな発想が求められていると考えます。

正会員の皆さん、そして賛助会員の皆さん、村木新会長とJ A A G Aに対してこれまで以上のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げ、私の退任のご挨拶とさせていただきます。有難うございました。



## 村木鴻二新会長就任挨拶



J A A G A は、1997 年創立以来、初代大村会長、二代鈴木会長、三代石塚会長のもと、先輩の皆様方のご努力により、困難な創成期を乗り越え、立派に成長し、今や円熟期を迎えつつあります。

私は、今回図らずも石塚前会長の後を引継ぎ、会長に就任することになりました。個人的にも、J A A G A は私が空幕長の時代に誕生し、かつ航空自衛隊退役後には常務理事そして理事長を務めるなど、深い縁と愛情を感じております。微力ではありますが、新しく役員に選任された諸君と共に、先輩諸氏が築かれた精神を引継ぎ、更なる J A A G A の発展のため、努力していきたいと思っております。会員の皆様におかれましても、今までと変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

我が国の平和と安全さらに東アジアの安定のために「日米同盟」が必要不可欠であり、それを有効に機能させるため航空自衛隊と米空軍との信頼関係が極めて重要であることは言うまでもありません。

J A A G A は、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的とし、現役の皆様が仕事のやりやすい環境作りに寄与しようという航空自衛隊 O B 主体の組織であります。活動に際しては、われわれが先輩であるがゆえに、現役の皆様にとって負担とならないよう着意し、ボランティアに徹したいと思っております。役員の皆様には、ボランティアとしての負担を強いることとなりますが、現役時代に培った米空軍との友情や経験を生かし、役員相互に助け合って楽しく明るく活動することを要望します。

一昨年起きた 9. 11 米中枢同時多発テロは、21

世紀の新たな脅威として世界を驚愕させましたが、その後の米国を中心とする国際社会の対応は、我が国にも国際社会の団結とさらに「日米同盟」の重要性を再認識させ、具体的な施策が次々と実行されることになりました。まず、「テロ特措法」が成立し、P K O 活動等以外では初の海外への自衛隊派遣によって米軍等を支援することが可能となりました。また、大量破壊兵器保有の疑惑のあるイラクに対する米英軍の武力攻撃が始まるのを契機に、有事法制の検討に拍車がかかり、関連法案が成立することとなり、独立国としての長年の懸案であった有事法制がスタートしました。

現在はイラク戦争において米英軍勝利の後を受け、戦後のイラク復興支援に関する法案が国会で審議されています。北朝鮮の核やミサイルの脅威を身近に感じ、同盟国としてのより明確な姿勢が求められている我が国としては、ぜひとも成立をさせねばならない法案であると思っております。最良の結論が出ることを期待しています。

このように、「日米同盟」の絆が地道ながら前進



New Air Chief Gen. Tsunagari & Guests



しつとあることは、大変うれしいことでもあります。このような状況下において、と言うよりこのような状況下であるからこそ、今まで以上に米軍の活動に対する我が国民の強力な支持ならびに在日米軍人やその家族との友好や信頼関係の発展は極めて大切であると考えます。当協会はその中核としての役割を果たしていく必要があります。まさに、その存在意

識を問われる時ではないでしょうか。皆様の心からの支援と協力が望まれるところであります。

皆様、それぞれご多忙中のことと存じますが、引き続き当協会の活動へのご理解ならびに積極的なご参加を賜り、「日米同盟」の信頼性確保に力をお貸し下さるよう心からお願い申し上げまして就任の挨拶といたします。

## 記念講演概要

### 「航空宇宙遠征軍における 第 18 航空団の運用について」

石塚前会長、村木新会長、ご来賓の皆様及び日米エアフォース友好協会の皆様、こんにちは。本日は皆様と共に数時間過ごせますことを大変光栄に思います。また、講師としてご招待くださりありがとうございます。私は、航空自衛隊とアメリカ空軍の友好促進を目標に掲げている貴団体 J A A G A の活動に敬意を表しております。

今日は我々の嘉手納基地での任務とその任務を遂行する各部隊について話をさせて頂き、更になぜ嘉手納基地が合衆国にとって戦略的基地なのか、なぜ太平洋の要石と呼ばれるのかということにも触れたいと思います。また E A F（部隊展開構想）と、A E F（航空機動展開部隊）についてもご説明いたします。最後に、我々の戦闘部隊の A E F や「不朽の自由」作戦と呼ばれるテロとの戦い、及び「イラクの自由」作戦への支援と、合衆国の北朝鮮に対する柔軟性のある抑止力への嘉手納基地の関わり方をお話いたします。

我々の任務は至ってシンプルです。それは日本とアメリカの国益を守るために、統合された展開可能な空軍力を有した即応態勢と機能的な基地を提供することです。この目的達成のため嘉手納基地では、軍を動員し、展開するための部隊支援施設をはじめ、戦闘機、空中給油機、レスキューヘリコプター、空

中及び地上のレーダーシステムを常に戦闘可能な態勢を維持しています。第 18 航空団は航空機を運用し、戦い、そして勝つ準備ができている他に類を見ない航空力を有したチームであります。

空軍では嘉手納基地をその戦略的地域からしばしば太平洋の要石と呼びます。空路では東京から約 2 時間、朝鮮半島の非武装地帯と台湾からは 45 分です。沖縄での我々の存在が両国の国益である地域の平和と安定を守り、ひいてはすべての人々に繁栄をもたらします。アメリカは約 40 % の貿易をアジアとしており、わが国の経済は当地域のほとんどの国々と相互に依存している状態にあります。

日本を含めた当地域の国々では、アメリカの存在を評価して頂いております。わが軍は環太平洋、特に西太平洋地域の利益を守るという現実的責務を有しています。大きな紛争やテロ攻撃が起こった場合、或いは我々の国益への脅威があった場合には時間が勝敗を決めることになるでしょう。また弾道ミサイルなどのテクノロジーの発展改良により、リアクションタイムはどんどん短くなる一方、大量破壊兵器は拡散してます。

第 18 航空団は横田基地にある第 5 空軍とハワイのヒッカム空軍基地にある太平洋空軍の下部組織であります。当基地には 4 軍種、国防総省出先機関、



国務省及び5つの米空軍のメジャーコマンドを支援する部隊が所在しています。

航空団には約6,500人の要員がおります。家族、シビリアン、日本人従業員や契約関係者を含めた基地全体の人口は21,000人になります。更に航空団には総額40億ドルのF-15、KC-135、E-3、HH-60などの航空機を含めた60億ドルの資産があります。

沖縄における嘉手納の存在は島の経済に大きく寄与しています。年間の経済効果は7億ドル以上と試算され、この金額には日本人従業員の賃金、基地外の家賃、そして地元業者への契約工事等の契約が含まれています。更に嘉手納基地内の土地を所有している約7,400人の地主の方々へは日本政府から相当額が支払われています。

ここで嘉手納基地の戦闘空軍力についてお話ししたいと思います。太平洋空軍傘下の第18航空団は嘉手納基地のホスト部隊であります。航空機80機を有し、空軍の海外基地では一番大きい戦闘混成航空団です。

第44、第67戦闘飛行隊にはF-15が各24機あり、航空力を誇っています。F-15はAIM-7、AIM-9とAIM-120などのAMRAAMの新型中距離空対空ミサイルを8発搭載できます。1991年の湾岸戦争では米軍の戦闘機の中で最も空対空の成功率が高かったのがF-15です。

第909空中給油飛行隊のKC-135×15機は西太平洋地域の米空軍で唯一常駐している空中給油機です。どのような不測の事態が起こっても米軍の航空機に重要な空中給油をします。

AWACSとして知られているE-3センチュリ×2機は第961空中管制飛行隊に所属しており、どのような危機に直面しても偵察と統制の両方を提供し指揮統制において重要な役割を担っています。

HH-60ブラックホーク・ヘリコプタ×10機は第33救難飛行隊に所属しており、昼夜飛行可能で有事の際でも平時でも遭難者のための救難任務にあたっています。

その他に嘉手納には第18航空団の直属部隊では

ない13の準構成部隊があります。

例えば第82偵察飛行隊に所属するRC-135リベット・ジョイントは太平洋地域の電子偵察を行います。

第353特殊作戦群ではMC-130×10機を有し戦闘及び物資と人員の戦術空輸を行います。

海軍のP-3は第7艦隊のための訓練と支援が任務です。3機から10機のP-3オライオンがシーレーンの偵察を行っています。また海軍と海兵隊の戦闘機と海軍のC-12輸送機×2機が嘉手納から展開しています。

アメリカにとっては日本ほど重要なパートナーそして同盟国はありません。両国民は約2世代に亘り史上まれに見る強さの友好を築きました。新しい脅威に立ち向かい、テロとの戦いを展開している今、両国は90ヶ国が連なる史上最大の同盟関係の中で、それらの国と共に繁栄と安全を促進する活動に参加する類いまれな機会を手に入れました。

ご承知のようにアメリカ大統領は、米国が同盟のパートナーと共に南西アジア地域の自由と平和を促進するための努力を続けると3月17日に発表した際に、自由と民主主義、テロとの戦いへのコミットメントを再び強調しました。

我国は自国の軍隊を、アルカイダ、タリバン、オサマ・ビンラディンそしてサダム・フセインらとの戦いのために動員し、日本はその米国を支援しました。

ブッシュ大統領は更に「人間として自由への渴望とその力は、地上の全ての生き物から感じとることができます。そして最も強い自由の力は、憎しみや暴力を乗り越え、人類に与えられた創造性を平和の探求のために使うことにあります」と語りました。

イラク解放の作戦開始から72時間以内に、同盟軍は3千人以上の捕虜を捕らえ、数百人の民間人は食料や水を求めて投降してきました。7日も経たない間に1万5千ソーティーを実施し、その目標はイラク政権の中核として知られていたイラク情報機関の司令部や宮殿警備隊の宿舎、兵器を隠すために使われていた大統領宮殿などでした。イラク各地や首



都バグダッドとその周辺への攻撃は明らかに効果がありませんでした。

皆さんは、イラクの自由作戦のためにどうやって3万7千人もの空軍兵士を展開したのかと不思議に思うかもしれません。これはAEFと呼ばれる新しい部隊展開構想をもとに、現在のアメリカ空軍が運用されている結果であります。第2次世界大戦や朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、イラクの自由作戦を考えると、AEF構想がどのようなものか、おわかり頂けると思います。空軍力のほとんどはアメリカから戦闘に参加するために前線に行きました。冷戦時代に空軍が何千人という兵士と航空機を展開していたのは、前方展開部隊であり、配備された場所で戦うようになっており遠征軍ではありませんでした。

AEFについてご説明します。空軍全体の戦闘力を、10個のほぼ同じ能力の戦闘軍に分割しました。各AEFあたり航空機175機、兵士1万5千人以上で編成されています。機種は爆撃機のB-52、B-1、B-2、戦闘機のF-15とF-16、またU-2やAWACSなど、全機種が含まれています。

AEFのサイクルは15ヶ月です。初めの10ヶ月は所属基地に於いての通常訓練や、レッドフラッグ、コープサンダー等の演習の期間です。次の2ヶ月は準備期間で、最後の3ヶ月が90日前後の展開期間となっています。そのサイクルを終えると次のサイクルが始まるまで休息をとりながらの通常の勤務体制となります。

部隊指揮官や兵士がより良い展開計画を作成できるように、また展開時期を予測しやすくするために1999年の9月にAEFのシステムが導入されました。現在は、3回目の15ヶ月サイクルを実施しています。兵士はこのサイクルを中心にして、これまでより自分たちの生活・人生設計を立てやすくなりました。展開する時期がわかっていることにより、子供を育てたり、教育を受ける計画がしやすくなりました。最良の訓練とAEFの輪番制のコンセプトを戦闘力構築の土台とするこの方法は、兵士をより満足させ、空軍に残る材料となり、ストレスを軽減

し高い士気で多様な任務を完遂できる要員を空軍に提供します。

イラクの自由作戦には当初AEF7とAEF8が展開していました。しかし作戦の規模の大きさから、これら7、及び8を展開させたまま、必要な人員と航空機を現地に派遣するため、AEF9とAEF10、更にAEF1とAEF2のいくつかのエLEMENTを展開しました。

嘉手納では第18航空団がAEF5と7を支援しています。嘉手納から展開していった750名の派遣期間は延長されたままです。そのほとんどはF-15の飛行隊と第961空中管制飛行隊所属です。今年の2月末に帰還する予定でしたが、6ヶ月以上延長されました。ECSと呼ばれる戦闘展開支援でAEFを支援しています。憲兵、施設、福利厚生、医療などの部隊から支援要員が現在展開中のAEF7の支援でECSとして派遣されています。

AEFの目的は、世界中の多種多様な任務に対応するために、兵力をまとめ、訓練し、装備することにあります。兵士とその家族により安定した、計画の立てやすい生活を提供しながら、国家の目的を支援するのが焦点です。

韓国所在の米軍は、半島での有事に対処するためAEFでは展開せず、現地に駐留しています。従って最近在韓米空軍は11番目のAEFと認定されました。

AEFの仕組みについて説明しましたので次に、AEFの活動例えば、テロとの戦い（不朽の自由作戦）とイラクの自由作戦への支援と、北朝鮮に対する柔軟な抑止策について、この一年の嘉手納基地の活動をお話します。

南方監視作戦のため、2002年9月に初めてF-15の第44戦闘中隊を南西アジアに派遣しました。2002年12月には第67戦闘飛行隊が交代要員として派遣され、今月中旬まで展開していました。F-15のパイロットと整備員、任務支援要員が展開していたために、イラク空軍は何十億も投資した戦闘機をただの一機も、繰り返しますが、ただの一機も発進できなかったと信じています。



第 961 空中管制飛行隊は、南方監視作戦とイラクの自由作戦において展開した A E F 5 と 7 を支援しました。A E F 5 に対してはクルーと支援要員を、A E F 7 に対しては支援要員と航空機を支援し、統合航空作戦所に 100 % 正確な航空写真を提供しました。この中隊は日韓共催のサッカーワールドカップの開催期間中も監視活動を実施しました。

第 909 空中給油飛行隊は、E-3 や F-15 が南アジアに展開する際に、またほかの飛行機が太平洋地域に来る際の空中空輸支援をしました。この中隊からは 2 個の部隊がタイのウタパオとシンガポールのパヤ・レバー基地へ、B-1、B-2、B-52 の爆撃機と空輸機支援のため派遣されました。爆撃機はアフガニスタンへ向かう途中であり、輸送機は人道支援物資を運んでいました。第 909 空中給油中隊は、北朝鮮への抑止の一つとして使用されている、グアム島の B-1、B-52 と、朝鮮半島に派遣された F-117 の支援に大きく寄与しました。

第 33 救難中隊では、不朽の自由作戦への支援として、フィリピンのバシラン島周辺での統合任務部隊 510 の作戦における戦闘時捜索救難支援のため、ザンバオンガに 140 日間展開しました。

その期間、第 33 救難中隊では 15 回の戦闘任務を完遂し、アメリカ空軍と海兵隊、フィリピン人 19 人の命を救いました。この中隊では戦闘警戒のほか、多国籍軍に対して負傷兵/死亡兵後送訓練等を行いました。8 月にはクルー 2 組とヘリコプター 2 機を朝鮮半島に派遣し、多国籍軍による韓国海軍の艦艇の救難作業を、30 分の出動待機、24 時間態勢で支援しました。また、ワールドカップ期間中も、捜索救難への 30 分の出動待機態勢で支援しました。

第 18 作戦支援中隊は、21 名の航空自衛隊員のための一週間にわたる、歴史的な空中給油の事前研修に、またフライト研修や見学、オリエンテーション、講義の分野で支援しました。この研修により、共同運用を促進しながら協調関係と相互運用性が増幅されたことを実感し、多国間演習への自衛隊の参加準備ができたと確信します。空中給油訓練は現在の航空自衛隊の能力を向上させ、将来の訓練演習に参加

するための準備を整えます。更に、空中給油機を導入するための準備となります。航空自衛隊との空中給油訓練には第 623 空中管制飛行隊も参加しました。

今回の共同空中給油訓練と要撃管制戦闘訓練の究極の目的は、日本防衛のために、共同航空運用を促進する技術の習得と改善にあります。

A E F プログラムの運用全体に及ぼす影響についてお話しします。18 ヶ月以上前の 2001 年 10 月 7 日に不朽の自由作戦が始まって以来、現役、州兵、予備役の空軍チームは、当作戦の四分の三以上の任務、つまり約 8 万ソーターを実施しました。空軍の爆撃機、戦闘機、輸送機、タンカー、情報収集機、偵察機が毎日出動しています。B-1、B-2、B-52、F-15、F-16、A-10、及び A C 130 はアフガニスタンにおける戦闘任務の 75% 以上を実施し、1 万トン近い弾薬、(これも全体の約 75% ですが)、を投下し、約四分の三もの攻撃目標に打撃を与えるか破壊しました。アフガニスタンでの攻撃作戦中、空軍では 3 万 9 千 650 回の空輸任務を飛行しました。これらの任務で 41 万 8 千人と 42 万 9 千トンの物資をアメリカからアフガニスタンに輸送しました。

嘉手納から犠牲者も出ました。第 353 特殊作戦群所属の 2 名はフィリピンでの任務中に命を落としました。彼らは究極の代価を払いましたが、イラク解放のために戦って亡くなった英雄と同じように、自由と民主主義を守るための勇気と献身とコミットメントはいつまでも忘れられることはないでしょう。

イラクの自由作戦では 800 機以上を動員し一日約 1000 ソーターを実施しています。3 月 19 日に戦争がはじまってから先週までに、空軍では同盟軍の全ソーターの半分にあたる 1 万 8 千ソーターを実施しました。その期間中、同盟軍の航空機は 2 万 3 千発以上の弾薬を投下し、その約 70% は精密誘導兵器でした。輸送任務もあわせて実施しており、これまでに 6 千 5 百ソーターを実施しました。同盟軍は成果をあげましたが、それでも全体の約 84% にあたる 200 回以上の戦闘時捜索救難も実施しました。大変残念なことでありますが、私たちの息子



や娘のような兵士を亡くしました。122名が戦死し、8名が捕虜として捕らえられていると思われます。

未来に向かって進んでいくためには、覚悟が必要であります。この地域の有事の際には航空力が軍事的選択となることは周知の事実であります。その事態というのは政治的な抑制の変化によって起きる限定的な目的であると思われます。しかしこの紛争ではわが軍のみで戦うのではなく、同盟国といっしょに戦います。

コリン・パウエル国務長官が就任式で「世界は、民主主義と自由のもとで自らの運命を切り開いていくという権利を世界中の人に与える新しい道を歩み始めました」と語りました。

日本政府とアメリカ政府は、この地域の平和と繁栄にとって、アメリカ軍の存在がきわめて重要であると再認識しました。

米軍と同じように航空自衛隊には長くて豊かな歴史があります。1954年6月3日に日本の国会で航空自衛隊の設立が決定され、その約1ヶ月後の7月1日に設立されました。それから50年近く、航空自衛隊は制空権を維持し、彼我不明機の領空侵入を防ぎ、平和と安定を守ってきました。貴団体でも2004年の航空自衛隊設立50周年を祝賀するでしょう。

両空軍の未来を思うとわくわくします。両軍共に誇りとする伝統と約束された未来があります。今では誰も航空宇宙力の価値について疑問を呈する人はいません。困難な問題に立ち向かう勇気とコミットメントをお互いに持ちつづけるでしょう。われわれの次世代が、任務遂行に必要なテクノロジーや技術を習得していることも確認しなければなりません。現在、空軍ではF-15を先進戦術戦闘機のF/A-

22 ラプターに換装する計画があります。しかし、戦いで勝利や紛争解決は、勇気とコミットメントと人間性によるところも大きいことを忘れてはなりません。

ブッシュ大統領が就任前にこう言いました。「アメリカはその歴史と選択により、世界と大きく関わりつづけており、自由を善しとする権力のバランスを保っています。このことを維持していくためには、アメリカの重要な利益を守り、最も高い理想を掲げている外交政策が必要であります。その外交政策は透明で首尾一貫した自信に満ちたものであり、われわれの価値を正しく反映し、友人にも正直であるものでなければなりません。」日本はアメリカの友人、力強い友人であり、自由と民主主義を守りつづけています。

嘉手納基地所属の各部隊やAEFを通しての空軍への支援に対する皆さんの理解を、私の話で深めることができましたでしょうか。航空力の観点から見たとき、嘉手納は太平洋の要石であり、われわれの任務は日本の防衛と日米の両国の国益を守ることにあります。

そのような中でもAEF、テロとの戦いに柔軟に対応し、更には強力な軍をもってして北朝鮮に対する監視を続けています。

日米エアフォース友好協会は航空自衛隊と在日米空軍にとって大事な支援団体であり続けてきましたし、今後もそうあり続けることでしょう。平和と安定を守る活動をしている第18航空団および嘉手納基地の関係者のコミットメントについて皆様に発表する機会をいただきましたことに感謝申し上げます。ご静聴ありがとうございました。

## 講演等の要望を募ります

### 「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望あれば御一報下さい。 J A A G A事務局



## 第1号議案

## 平成14年度事業報告

(自平成14年4月1日～至平成15年3月31日)

## 第1 事業実績の概要及び会勢の現状

昨年度、中止または延期を余儀なくされた事業（正会員及び賛助会員による米軍基地等の研修、SPORT EX）を含め、主要事業は、ほぼ計画どおり実施できた。

大学院生等の横田基地研修支援を2件実施し、在日米空軍の存在意義の啓蒙を図る企画は、着実に定着しつつある。また、制度の新設により、米第5空軍司令官経験者6名が名誉会員に就任した。

平成14年度末の会員数は、正会員286名、個人賛助会員22名、法人賛助会員49法人及び名誉会員6名の計363名・法人であり、平成13年度末に比べ30名・法人の増加となった。

## 第2 事業等の実施状況

## 1 事業の実施状況

## (1) 日米共同訓練における参加日米隊員の激励等

14. 4. 17 グアムにおける共同訓練に参加する空自部隊に対し、支援を実施した。

## (2) 米空軍隊員の激励等

15. 2. 3 スペースシャトル「コロンビア」の事故に関連し、石塚会長から5空軍司令官ワスコー中将に、弔意を表する書簡を送付した。

15. 2. 14 同上の弔意書簡を、石塚会長から名誉会員に送付した。

15. 3. 19 米国のイラク対応を支持する書簡を、石塚会長から5空軍司令官ワスコー中将に送付した。

## (3) 日米共同の行事等に対する支援

該当する実施事項なし。

## (4) 空自基地及び米軍基地等の研修

## ア 正会員研修

15. 2. 13 横田基地研修を実施した。参加者：26名

## イ 賛助会員研修

14. 6. 11～12 那覇、嘉手納基地研修を実施した。参加者：27名（理事4名を含む。）

## (5) 日米要人等の講演・講師派遣

## ア 講演

14. 6. 27 講師：5空軍司令官ワスコー中将  
演題：テロ事件以降の日米安全保障関係の現状と将来 聴衆：約180名

15. 1. 31 講師：空幕調査部長藤井将補  
演題：中東情勢について 聴衆：約130名

## イ 米軍への講師派遣

14. 5. 23 クマヒルズ・レクレーションセンターにおいてJAAGA TALK TRIALを開催した。

議 題：「新たな任務を担う基地対策について」

参加者：大串理事以下10名、米空軍ワスコー中将以下10名

## (6) SPORT EX'02

14. 10. 18 多摩ヒルズゴルフ場において実施した。  
参加者：会員58名、米軍隊員31名

## (7) 在空自基地米空軍幹部等支援

15. 1. 17 横田基地において、5空軍司令官ワスコー中将に村木理事長から日米下士官相互部隊研修の支援金を贈呈した。

15. 1. 31 5術校（小牧）バージェス少佐に対し、希望する支援品を貸与した。

## (8) 日米隊員の表彰

14. 9. 14 横田基地空軍記念日行事において、米空軍グリーン少佐、ピラージャ少佐及びハービル曹長並びに防指群荻野准尉及び第3補給処小泉3曹に対し、それぞれ石塚会長が優秀隊員表彰を行った。

14. 9. 14 三沢基地空軍記念日行事において、米空軍ラム少佐及び北警団石沢曹長に対し、増元副会長が優秀隊員表彰を行った。

14. 9. 21 嘉手納基地空軍記念日行事において、米空軍トラウイック曹長及び南混団山田准尉に対し、それぞれ横澤副会長が



優秀隊員表彰を行った。

(9) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇

14. 4. 10 嘉手納基地における第18航空団司令交代式(ノース准将からレミントン准将へ)に際し、離任のノース准将に記念品を贈呈した。

14. 7. 19 三沢基地における第35戦闘航空団司令交代式(アターバック准将からアトキンス大佐(現准将)へ)に小澤三沢支部長が出席し、離任のアターバック准将に記念品を贈呈した。

(10) 日米安保等に関する広報活動

ア 講師派遣

該当する実施事項なし。

イ 大学生等の米軍基地研修支援

14. 9. 24 上智大川口、樋渡教授及び大学院生17名の横田基地研修を支援した。

15. 1. 31 東京都防衛協会青年部23名の横田基地研修を支援した。

ウ 米空軍に対する広報支援

適宜、米空軍広報記事を「だより」に掲載した。

エ 米空軍又は空自隊員の企業研修幹旋

該当する実施事項なし。

(11) 在日米空軍各基地との連携の強化

主として渉外担当理事を通じ、5空軍、米空軍基地等との意志の疎通を図った。

(12) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布

17号(14. 7. 31)、18号(14. 11. 29)、19号(15. 3. 27)の3回発行した。

(13) 総会及び懇親会

14. 6. 27 第7回総会をホテル・グランドヒル市ヶ谷にて開催し、総会に約60名、懇親会に約150名が参加した。

(14) その他

14. 4. 23 日米ネービー友好協会(JANAF)A) 総会に、村木理事長が出席した。

14. 6. 1 嘉手納スペシャルオリンピックに、横沢副会長が参加し、助成金を贈呈した。

14. 11. 25 日米ネービー友好協会(JANAF)A) 懇親会に、石川副会長以下が出席した。

14. 12. 8 横田基地司令招宴オープンハウスに大串、林、越智各理事が出席した。

14. 12. 8 三沢基地司令招宴オープンハウスに、小澤支部長が出席した。

15. 1. 29 福生・横田交流クラブ新年会に、石川副会長以下が出席した。

2 運営管理の実施状況

(15) 会勢の維持・拡大(15年3月31日現在 ( )は前年度末)

正会員	286名	(267名)
個人賛助会員	22名	(22名)
法人賛助会員	49法人	(44法人)
名誉会員(14年度新設)	6名	
計	363名・法人	(333名・法人)

(16) 会員名簿の作成・配布

7月に会員名簿本冊を発行し、14年11月及び15年3月に修正表を発行した。

(17) 名誉会員制度の創設

平成14年9月1日付けで制度を新設し、訪米中の石川副会長から以下の5空軍司令官経験者に名誉会員への就任要請を伝え、受諾された。

デイビス元空軍大将、ホーリー元空軍大将、マイヤーズ空軍大将、エバハート空軍大将、ホール元空軍中將、ヘスター空軍中將 以上6名

(18) 一般広報

ア 空自業務管理講習や各基地の航空祭、他団体集会等の機会を捉え、会長以下各役員が自主的かつ積極的に実施した。

イ インターネット・ホームページ

試行開設中。11月から英語版の掲載を開始した。

ウ パンフレットの更新及び英文パンフレットの作成パンフレット(英文併記)を作成した。

(19) 理事会及び常務理事会

ア 理事会: 3回(9/20、12/13、3/19)

イ 常務理事会: 7回(4/22、5/27、7/31、10/28、11/29、1/24、2/26)

(20) 監査

15. 4. 9 平成14年度収支決算監査及び在空自基地米空軍幹部貸与品の監査を実施した。

以上



第2号議案

# 平成14年度収支決算報告書

(平成14. 4. 1 ~ 15. 3. 31)

(単位: 円)

収 入		支 出	
前年度繰越金	4,213,299	共同訓練激励費	100,000
収 入		激励慰問費	0
年会費	4,433,580	研修助成費	80,000
寄付金	0	式典行事参加費	134,092
利息	216	友好親善行事費	1,099,849
雑収入	138,494	総会費	233,984
計	4,572,290	広報費	1,406,483
		小 計	(87%)3,054,408
		名簿関係費	75,600
		会則関係費	39,900
		入会活動費	63,428
		支部運営費	0
		会議費	5,754
		事務費	102,230
		通信費	14,893
		旅費	93,000
		雑費	48,420
		小 計	(13%) 443,225
		計	3,497,633
		翌年度繰越金	5,287,956
合 計	8,785,589	合 計	8,785,589

第3号議案

# 平成15年度事業計画

(自平成15年4月1日~至平成16年3月31日)

## 第1 事業連宮方針

引き続き、「J A A G Aの目指すべき方向について」(12. 9. 19 第20回理事会承認)に基づく事業を推進する。在日米空軍に関連する事業については、情勢の変化に柔軟に対応して実施する。

事業を推進するに際し、重視すべき事項は次のとおり。

- 1 在日米空軍の存在意義の一層の啓蒙及び同隊員の士気の高揚に寄与する。
- 2 会勢の拡大を図る。
- 3 協会の活動について、広く各層に理解を求める。

## 第2 実施事業等の概要

### 1 事業

- (1) 日米共同訓練における参加日米隊員の激励等  
実施事項：訓練参加隊員の激励・慰問  
対象訓練：コープ・ノース、コープ・エンジェル等

時 期：日米共同訓練実施時

- (2) 米空軍隊員の激励等

実施事項：米空軍隊員の激励・慰問

訪 問 先：三沢、横田、嘉手納

時 期：必要に応じ実施

- (3) 日米共同の行事等に対する支援

実施事項：嘉手納、三沢における日米隊員の友好スポーツ大会等への支援

時 期：大会等実施時

- (4) 空自基地及び米軍基地等の研修

実施事項：空自及び米軍三沢基地における装備品、施設等の研修及び懇談・激励等

参 加 者：賛助会員

時 期：未定

- (5) 日米要人等の講演・講師派遣

ア 会員及び空自隊員を主対象とする講演



<p>講師：米空軍、在日米大使館、防衛庁等の要人</p> <p>時期：総会実施時及び3／四半期</p> <p>対象：正会員及び賛助会員、空自・米空軍隊員</p> <p>イ 米空軍隊員を主対象とする講演会等への講師等派遣</p> <p>講師等：会員の中の適任者（通訳は米軍が準備）</p> <p>実施要領：米空軍側の要望（日時、場所、演題等）による。</p> <p>(6) SPORTEX'03</p> <p>場所：多摩ヒルズ</p> <p>参加者：会員、空自隊員及び米空軍隊員</p> <p>時期：2／四又は3／四半期</p> <p>(7) 在空自基地米空軍将校等支援</p> <p>実施事項：空自基地派遣米空軍隊員の活動等への支援</p> <p>対象：① 新たに着任した在空自基地米空軍将校（3基地程度）</p> <p>② 日米下士官相互部隊研修に参加する隊員</p> <p>(8) 米空軍隊員の史跡研修支援</p> <p>実施事項：賛助会員招待の日光等史跡研修支援</p> <p>対象：米空軍隊員（夫妻等9名基準）</p> <p>(9) 日米隊員の表彰</p> <p>対象基地：三沢、横田、入間、府中、嘉手納、那覇</p> <p>表彰人員：各基地日米隊員1名基準（7名）</p> <p>時期：米空軍記念日等関連行事実施時</p> <p>(10) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇</p> <p>対象基地等：三沢、横田、嘉手納、都内</p> <p>時期：都度</p> <p>(11) 日米安保等に関する広報活動</p> <p>ア 講演会等への講師派遣等</p> <p>実施事項：① 部外者、学生等を対象とする講演会等に、会から講師を派遣又は米軍要人等の講師の派遣斡旋</p> <p>② 大学生等の米軍基地研修支援</p> <p>実施要領：主催者側の計画（日時、場所、経費、その他）による。</p> <p>イ 米空軍に対する広報支援</p> <p>実施事項：米空軍が準備する広報記事を「だより」に掲載（「だより」紙面の提供）</p> <p>実施要領：米空軍（横田基地広報部）との調整による。</p> <p>ウ 米空軍又は空自隊員の企業研修斡旋</p> <p>実施事項：米空軍又は空自隊員が研修を希望する民間企業との調整、斡旋</p>	<p>実施要領：米空軍又は空自の計画（研修企業、日時、その他）による。</p> <p>(12) 在日米空軍各基地との連携の強化</p> <p>対象基地：三沢、横田、嘉手納</p> <p>実施事項：各基地との緊密な調整、広報資料の提供等</p> <p>(13) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布</p> <p>発行回数：3回（7月、11月、3月）</p> <p>ページ数：16ページ基準</p> <p>(14) 総会及び懇親会</p> <p>日時：15年4月25日（金）</p> <p>場所：ホテル・グランドヒル市ヶ谷</p> <p>(15) 空自創立50周年記念行事等に対する支援事業の検討</p> <p>実施事項：空自創立50周年（平成16年）に際し、空自が実施する記念行事等に対する支援事業を検討する。</p> <p>2 運営管理</p> <p>(16) 会勢の維持・拡大</p> <p>実施事項：協会のP R（面談、卓話、パンフレット配布等）及び入会案内</p> <p>実施要領：① 会勢拡大のため、積極的に入会勧誘を実施</p> <p>② 空自退官予定隊員に対しては退官時期に合わせて案内状を送付</p> <p>(17) 会員名簿の作成・配布</p> <p>発行回数：本冊1回、修正表2回</p> <p>時期：本冊（7月）、修正表（11月、3月）</p> <p>(18) 一般広報</p> <p>実施事項：① 関係広報誌等への投稿、情報の提供等</p> <p>② インターネット・ホームページの運営</p> <p>(19) 理事会及び常任理事会</p> <p>理事会：四半期毎に1回基準</p> <p>常務理事会：理事会を開催しない月毎に1回基準（4月及び8月を除く。）</p> <p>(20) 監査</p> <p>実施内容：前年度収支決算及び在空自基地米空軍将校貸与品の監査</p> <p>時期：4月</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
---	---

### 平成15年度事業予定表

項 目		実 施 時 期											
		1 / 四半期			2 / 四半期			3 / 四半期			4 / 四半期		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
事 業	(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等	----- (日米共同訓練実施時)											
	(2) 米空軍隊員の激励等	----- (必要に応じ実施)											
	(3) 日米共同の行事等に対する支援	----- (行事等実施時)											
	(4) 空自及び米軍基地等の研修	(賛助会員研修：期日未定)											
	(5) 日米要人等の講演・講師派遣	○4/25							○				
	(6) SPORTEX'03							○多摩					
	(7) 在空自米空軍幹部等支援							○NCO支援					将校支援○
	(8) 米空軍隊員の史跡研修支援		○										
	(9) 日米隊員の表彰						○						
	(10) 指揮官交代行事等への出席等	←-----→											
	(11) 日米安保等に関する広報活動	←-----→											
	(12) 在日米空軍各基地との連携の強化	←-----→											
	(13) 会報「だより」の発行・配布					○17号			○18号				19号○
	(14) 総会及び懇親会	○4/25											
	(15) 空自50周年行事等支援の検討	←-----→											
運 営 管 理	(16) 会勢の維持・拡大	←-----→											
	(17) 会員名簿の作成・配布				○本冊				○修正表				修正表○
	(18) 一般広報	←-----→											
	(19) 理事会(★)・常務理事会(☆)		☆	★	☆		★	☆	☆	★	☆	☆	★
	(20) 監査	○前年度分											

第4号議案

### 平成15年度収支予算案

科 目	15年度予算	備 考
前年度繰越金	5,287,956	
収 入		
年会費	4,343,000	個人会員90%、個人賛助80%、法人会員100% (58口)
寄付金	0	
利息	1,000	預貯金利息
雑収入	0	
計	4,344,000	
支 出		
共同訓練激励費	200,000	共同訓練慰労会：グアム×1、嘉手納×2
激励慰問費	100,000	
研修助成費	155,000	米空軍基地研修：案内状印刷・郵送料、記念品代、随行理事旅費
表彰関係費	355,000	日米隊員表彰：賞状・楯制作費(7人分)、表彰隊員参加費用等
友好親善行事費	1,020,000	講演会案内状印刷・郵送料・会場費、在空自米軍将校・NCO支援、指揮官交代行事(3回)、SPORTEX案内状印刷・郵送料、在日米空軍各基地との連携強化(2回)、日米共同行事支援(三沢分)
総会費	300,000	案内状印刷・郵送料、総会資料の印刷、総会会場費招待者会費助成
広報費	1,285,000	会報印刷・郵送料、講師派遣旅費
小計(80%)	3,415,000	
名簿関係費	70,000	名簿制作費、追録版制作費
会則関係費	40,000	改正分印刷費
入会案内郵送料等	70,000	
支部運営費	90,000	三沢、那覇、支部長総会参加旅費
会議費	20,000	理事会、常務理事会経費
事務費	70,000	事務用品の購入
通信費	30,000	各種連絡通信費(事業関連費用を除く)
旅費	100,000	各常務理事交通費(事業関連費用を除く)
雑費	100,000	科目外支出、メールボックス使用料、HP常駐費
小計(15%)	590,000	
予備費(5%)	200,000	
計(100%)	4,205,000	
翌年度繰越金	5,426,956	



## 第5号議案

## 役員 の 選 任

職 名	氏 名	
会 長	村木鴻二	
副 会 長	高橋伸治、江藤兵部、伊藤 惇	
監 事	田中伸昌、横山俊夫	
理 事 長	吉川武秀	
副 理 事 長	後藤龍一	
理 事	坂本祐信、荒蒔義彦	
常 務 理 事	総 務	森 和彦、鈴木喜雄、高島秀雄
	企 画	細 稔、山口利勝、桑原武彦、清水正睦、岩崎克彦、三澤守(新任)
	会 員	村岡亮道、尾崎利彦、宇都宮靖
	渉 外	中司 崇、大串康夫、阪東政詮
	財 務	平田伸成、橋本康夫(新任)
広 報	岡本智博、木村忠信、越智通隆、四ツ家邦紀、吉田松徳(新任) 蜂谷治幸(新任)	

【退任】会 長：石塚 勲(顧問へ)

副 会 長：石川吉夫(顧問へ)、横澤彰夫(顧問へ)、増元榮和

監 事：大橋武郎

常務理事：村木裕世、山本寿之、川田哲雄、林昭彦、村田博生、篠原輝弘、

横幕 功

顧 問	上田泰弘、白川元春、平野 晃、竹田五郎、山田良市、 森 繁弘、大村 平、米川忠吉、鈴木昭雄、長谷川孝一、 石塚 勲、石川吉夫、杉山 蕃、横澤彰夫、平岡裕治、 竹河内捷次、遠竹郁夫
-----	--

【退任】松村嘉夫

## ☆ 原稿募集 ☆

皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

## 皆様と共に歩むJAAGA

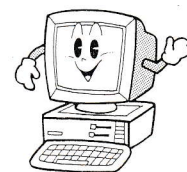
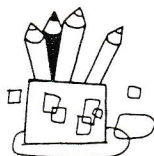
として更なる発展を期していきたいと思っております

皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしております

## 投稿受付

木村 忠信 Tel 03-3464-3053 (GEエジソン生命)

Fax 03-5459-2236



# コープ・ノース参加隊員を激励

## 空中給油訓練も課目に！

平成15年5月7日から16日の間、日米共同訓練コープ・ノース '03-02 が三沢基地をベースに実施された。

今回のコープ・ノース訓練は国内で実施される数少ないコープ・ノース訓練の一つで、航空自衛隊からはF-4、F-15、T-4、また米空軍からはF-16、C-130、KC-135 さらに日米双方のAWACS（空中警戒管制機）が参加した。また第2航空団（千歳基地）から参加したF-15にとっては「本年からスタートした空中給油訓練の最終仕上げの訓練として大変意義深い機会」（在日米軍司令官ワスコ中將）だった。

すでに承知のとおり、6月5日から20日の間米国アラスカ州で実施されたコープ・サンダー訓練には空自F-15が米空軍の空中給油機から給油を受け参加し、多大な成果を得て6月25日帰国した。このことは歴代の第5空軍司令官の適切な助言のもと、米空軍の全面的支援により、航空自衛隊の長年の夢の一つが実現したといえる。

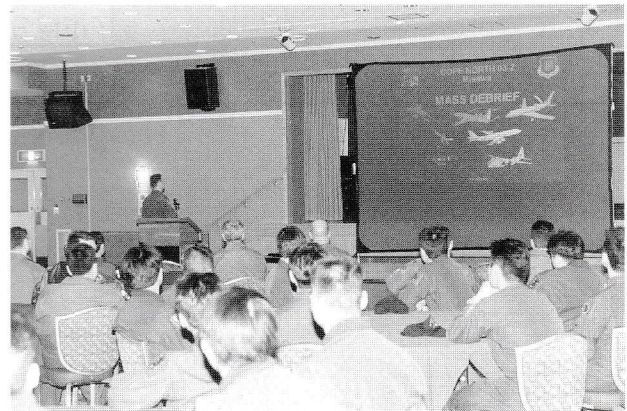


Air Refuel Training

今回、岩崎理事は、横田基地において在日米軍司令官ワスコ中將、三沢基地において太平洋空軍司令官ベガート大將に面談する機会を得、その席上JAAGAを代表し、米空軍の全隊員から寄せられた支援に対し改めて謝意を表した。その際、航空自

衛隊が空軍として新たな運用能力を得るための歴史的なステップを踏み出した我々の感動を、両司令官が共有していることに深い感銘を受けた。

16日に行われたマス・デイブリーフィングと打ち上げパーティーに参加した岩崎理事は、「米空軍と航空自衛隊の相互理解と友情の増進を支援するため、JAAGAの代表として本パーティーに参加しました。私達の最終目標は日米安全保障体制の強化に寄与することであります。この目標達成のためには、単なる友情と相互理解の増進に止まらず、相互信頼を確立することこそが緊要です。そして、両空軍の相互信頼の確立には、お互いにプロフェッショナルリズムを共有することが重要であると考えます。この意味においてコープ・ノース演習は我々にとってまたと無い機会であります。創設以来航空自衛隊は米空軍から多くの事を学んで来ましたが、今回の演習においても航空自衛隊は米空軍から空中給油という新たなオペレーションを学ぶこととなりましたが、その一方で、もし航空自衛隊員が本訓練行動の中で、米空軍隊員に対し何がしかプロフェッショナルな印象を与えることが出来たとしたら、元航空総隊司令官としてこれに勝る幸せはありません」とのスピーチと共に、日米両訓練統制官に対してパーティー用のビールを贈呈した。（蜂谷理事）



Mass Debriefing



## … 新入会員の紹介 …

### 1 新入会員

#### (1) 正会員

氏名 勤務先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
長谷川 隆	141-0031	品川区西五反田 5-25-2-405	03-5496-9638
(株) 東 芝	210-0901	川崎市幸区小向東芝町 1	044-548-5078
廣 瀬 紀 雄	270-0114	流山市東初石 2-81-9-2-305	04-7155-5908
(財)防衛調達基盤整備協会	160-0003	新宿区本塩町 21-3-2	03-3358-8712
森 一三司	236-0015	横浜市金沢区金沢町 184-16	045-701-0467
(株) イーグルス	107-0052	港区赤坂 2-17-52 グランドメゾン赤坂 501	03-5570-0015
遠 竹 郁 夫	358-0031	入間市新久 938-8	042-962-1341
石川島播磨重工業(株)	100-0004	千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル	03-3244-5910
尾 方 康 祐	553-0001	大阪市福島区海老江 5-4-8	06-6458-2722
東邦電気工業(株)	531-0075	大阪市北区大淀南 3-8-12	06-6452-1905
新 井 洋 一	358-0001	入間市向陽台 1-1-24-18-504	042-965-8514
(株) 新東亜 交易	100-8383	千代田区丸の内 3-3-1	03-3286-0339
松 井 健	143-0016	大田区大森北 2-11-1-802	03-3766-8224
(株) 山田洋行	106-6040	港区六本木 1-6-1 泉ガーデンタワー	03-5545-1143
原 田 幸 治	263-0043	千葉市稲毛区小仲台 7-3-1-F 415	043-284-6734
住友電気工業(株)	107-8468	港区元赤坂 1-3-12	03-3423-5151

#### (2) 個人賛助会員

氏名 勤務先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
小 川 泰 一 郎	155-0003	世田谷区代田 5-35-25	03-3412-6123
(株)ETL(環境技術研究所)	100-0005	千代田区丸の内 1-1-3 AIGビル 9 F	03-5288-7227
栗 田 康 弘	160-0004	新宿区四谷 4-3-1-301	03-3355-3327
(株) イーグルス	107-0052	港区赤坂 2-17-52 グランドメゾン赤坂 51	03-5570-0015
飯 田 宏	247-0006	横浜市栄区笠間 4-10-C-606	045-891-8245
(株) イーグルス	107-0052	港区赤坂 2-17-52 グランドメゾン赤坂 51	03-5570-0015
大 山 幹 夫	214-0032	川崎市多摩区枳形 6-15-2-101	044-922-1504
(株) イーグルス	107-0052	港区赤坂 2-17-52 グランドメゾン赤坂 51	03-5570-0015
ジミーシュワルツ	904-0111	沖縄県北谷町字砂辺 348、T-1	098-936-0343
(株)テラダエンバイロメンタルコーポレーション	904-0102	沖縄県北谷町伊平 421-1	098-936-0745
松 岡 謙 一	155-0033	世田谷区代田 4-29-7-202	03-5376-9346
鹿 島 建 設 (株)	330-6030	さいたま市中央区新都心 1-2 LAタワー 30F	048-601-5260
児 島 和 歌 子	145-0071	東京都大田区田園調布 3-42-2	03-5483-7878
金鶴プロデュース	683-0052	米子市博労町 2-58	0859-33-6521

#### (3) 法人賛助会員

法人名 代表者	〒	住 所	電話番号
ユナイテッド・テクノロジーズ・インターナショナル・オペレーションズ・インク ダニエルL.ヴェンチャック	105-0001	港区虎ノ門 1-17-1 虎ノ門 5 森ビル 4 F	03-3539-2302

### 2 退 会

(1) 正会員 石坂 旦、鈴木 眞、石母田治、松尾 繁

(2) 法人賛助会員 横浜ゴム(株)

3 訃 報 宮田幸則（平成 14 年 9 月）、右田明久（平成 15 年 2 月）